

# 古河病院&榛原病院

## HCU開設し急性期強化

### 重症患者さんを積極受け入れ

古河総合病院（茨城県）と榛原総合病院（静岡県）はHCU（高度治療室）を開設した。ICU（集中治療室）と一般病棟の中間に位置する病床。これまで両院にICUやHCUはなかったため、重症度の高い患者さんを積極的に受け入れる体制を築き、地域への一層の貢献を目指す。

古河病院は一般急性期病棟から8床を転換し開設した。以前から外来を含め救急患者さんが多く、従来は一般病棟のみで対応していた。しかし、一般病棟での人員配置基準や設備だけでは、多くの重症患者さんに対応するのが難しく、とくにマンパワーが少ない夜間の搬送には苦慮していた。こうしたなか、4月に常勤医師が6人入職するなど急性期への対応力が向上したことから、HCUを開設。

鈴木千秋・看護副主任は「重症患者さんは一般病棟よりも手厚い看護体制のHCUに入り、状態が落ち着いてから一般病棟へと移ります。重症患者さんに一層行き届いた看護が提供できるとともに、一般病棟の看護師



「地域に貢献したい」と鈴木・看護副主任（右）、関・看護副主任



古河病院のHCUは開設からほぼ満床状態



看護師教育にも力を入れる八木・看護部長（右）と櫻井・看護師長



CCUとも連携している榛原病院のHCU

の負担軽減にもつながっています」と説明する。

8月の本格稼働直後から、ほぼ満床状態が続くなか、同院では毎日夕方に各病棟の所属長が集まり、ベッドコントロール会議を開催。優先的に一般病棟に移ってもらう患者さんを決定し、とくに夜間の救急受け入れに備えている。関美菜・看護副主任は「一般病棟の看護師は患者さんの受け入れを予測できるため、夜間でも落ち着いて対応できます」。

鈴木・看護副主任は、HCUの開設が人材育成や採用活動にも良い影響を与えていることを示唆。「重症患者さんに集中して対応することで、看護スキルやモチベーションの向上にも寄与しています。HCUでの勤務を希望する看護師の

採用にもつながりました」と胸を張る。

榛原病院は一般急性期病棟4床を転換した。同院はケアミックス病院で、各病棟の機能強化に尽力。このうち急性期については、同院が属する志太榛原医療圏の地域医療構想もあり、増床で機能強化を図るのは難しい状況だった。

こうしたなか同院は昨年、日本医療機能評価機構の病院機能評価の更新審査を受審。サーベ

### 「トリアスロンIN徳之島」徳洲会が救護班などサポート

鹿児島県の徳之島にある徳洲会の医療機関、NPO法人TMAT（徳洲会医療救援隊）は、島内で開催された「第37回トリアスロンIN徳之島」を救護班としてサポートした。

今回は計600人が選手としてエントリーし、3,000人超がボランティアとして参加。大会当日は波が高く、スイムでリタイアする選手が続出。ランでも酷暑で脱水症状を起こす選手が多数発生した。

こうしたなか徳洲会からは、あまぎユイの里医療センターの友野範雄院長を中心に、同センターと徳之島徳洲会病院のスタッフ、TMAT隊員の合計36人が救護所の運営、各エイドス



体調不良の選手を救急車に運び入れるTMAT隊員と徳之島徳洲会病院のスタッフ

### 岸和田院 臨床留学のポイントを伝授！ 「史上最大の岸和田留学セミナー」

岸和田徳洲会病院（大阪府）は院内で「史上最大の岸和田留学セミナー」を開催した。臨床留学のポイントを学ぶイベントで2012年以来、2回目。北海道から九州まで、各地から徳洲会内外の医師や医学生53人が参加した。

セミナーでは臨床留学を経験している医師が講師を務め、実体験に基づき苦労した点や心構え、留学を通じたことなどをアドバイス。講義テーマも内科系と外科系医師の留学、男性・女性医師の留学、臨床現場での対策と医学英語・USMLE（米国医師国家試験）の対策と充実させた。

同セミナーを企画した米国ミシガン小児病院の桑原功光・小児脳神経科医師をはじめ、4人の講師が徳洲会病院で研修医時代を過ごしたことから、徳洲会で経験を積む良さを強調する場面も見られた。

桑原医師は「岸和田病院に少しでも恩返しできればという思いで、12年ぶりに企画させていただきました。ご協力いただいた松元陽一副院長はじめ職員の皆様に感謝しています」と話し、「できれば1～2年以内に、また開催できれば」と意欲を見せていた。



桑原医師（前列中央）は「本当に大事なことはネットに落ちていない」と対面にこだわり

イヤー（調査員）からの「重症患者さんが多いためHCU開設が可能ではないか」とのアドバイスがきっかけとなった。同院は7床のCCU（冠疾患集中治療室）を設置していたが、手術件数の増加にともない満床状態。循環器だけでなく外科や整形外科の手術件数も伸びており、重症患者さんを集中して看護する体制整備が急務だった。

HCUは手術室に隣接し設置。従来は術後の患者さんをエレベーターで一般病棟に移送することもあったが、術後、より手厚い看護を、より迅速に患者さんに提供できるようになった。

HCUには循環器の患者さんが多くと予測し、CCU経験のある看護師を中心に配置。櫻井恵真・看護師長は「術後はHCUに入室、安定したらCCUに移動する運用も行っており、とくにCCUの看護師の負担軽減につながっています」と指摘する。

八木千乃・看護部長は「重症患者さんを集中的に看護できる体制が整いました。多様な容態の患者さんに対応できるよう看護師の教育体制を見直し、病院全体の看護の質の底上げも図っていきます」と意気軒高だ。同院は今後、HCUを8床まで拡大していく考え。

テーション（コース上で食べ物やドリンクを提供する場所）の対応、病院搬送された選手の救急対応を行った。さらに、今までの救急・災害医療支援活動の経験を生かし、新たな試みとして①救護所の配置換え、②トリアージ（重症度・緊急度選別）システムの導入、③トリアス

ロン診療カルテの作成も実践。より円滑なスタッフ間の情報共有、早期介入による熱中症の重症化予防などにつながった。

徳之島病院の浅野京香看護師は「島の一大イベントが無事に終わり、徳之島の基幹病院としての責務を果たせて、ほっとしています」と安堵の表情。

### 医療者向けサーフィン大会 動画で徳洲会カップ紹介



第2回大会の開催も予定、さらに期待が高まる

徳洲会グループの公式YouTubeチャンネル「徳洲会TV」で、医療従事者向けサーフィン大会「第1回徳洲会カップin榛原」の紹介動画を公開、ほどなくして視聴回数が1万回を突破した。徳洲会カップは、静岡県牧之

原市にある日本初の大規模ウェーブプール「静波サーフスタジアム PerfectSwell」を会場に6月に開催。併設の駐車場では地域の方々が楽しめるステージイベントや、飲食・物販の出店、全国物産展、健康相談、TMAT（徳洲会医療救援隊）展示、DJ体験など、多彩な企画を実施。2,351人もの方々が来場し盛況裏に幕を閉じた。

動画は約16分間、いきいきとサーフィンを楽しむ選手たちの姿を中心に、イベントや表彰式のにぎやかな模様を紹介している。



## 目指せ！ ナイキンゲル

第34回

大学生の弟 1人暮らし  
夜勤明け  
ただいま  
おかし  
POTATO  
えっ 来たのー!? 元気が? ご飯ちゃんと食べてる?  
えっ 顔が!!!  
あれ? 体調は? 夜眠れてる? 腫れてない?  
ホテは水分摂るの過ぎる? 気をつけてねっ  
水分は? まだまだ暑いから喉が渇いてなくても定期的に水分摂るようにしてね  
あはは! いいから寝ろよ!